日本ライフライン株式会社

2007 年 3 月期中間決算説明会資料解説

本解説は、決算説明会資料の補足説明を目的としており、決算説明会の議事や発言をそのまま記録したものではありません。
また、本解説の記載内容のうち、歴史的事実ではない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響をうけますので、これらの予測へ過度に依存されないようお願いします。

日本ライフライン株式会社

2007年3月期中間決算説明会

2006年12月1日

... for patient comfort.

＜説明会開催概要＞
■開催日時;2006年12月1日　10:00～10:35
■会　　場;日本証券アナリスト協会会議室
■参 加 者;証券アナリスト、機関投資家等約25名
■発表内容;
⑴「2007年3月期中間決算および2007年3月期通期業績予想」
・・・取締役管理本部長　政次　浩二
⑵「課題と展望」・・・代表取締役社長　鈴木　啓介

2007年3月期中間決算報告
2007年3月期通期業績予想

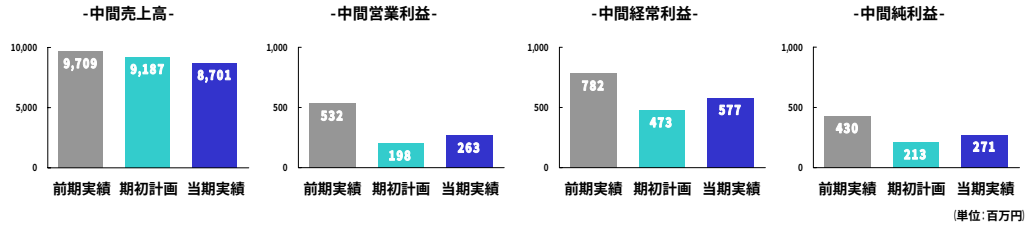
取締役管理本部長
政次　浩二

2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

2007年3月中間期業績

(単位:百万円)	07/3中間 実績	07/3中間 期初計画	期初計画比 増減額	期初計画比 増減率	06/3中間 実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	8,701	9,187	△486	△5.3%	9,709	△1,008	△10.4%
営業利益	263	198	64	32.6%	532	△269	△50.5%
経常利益	577	473	104	22.0%	782	△204	△26.2%
純利益	271	213	58	27.4%	430	△159	△36.9%



2006年12月1日 3 日本ライフライン株式会社

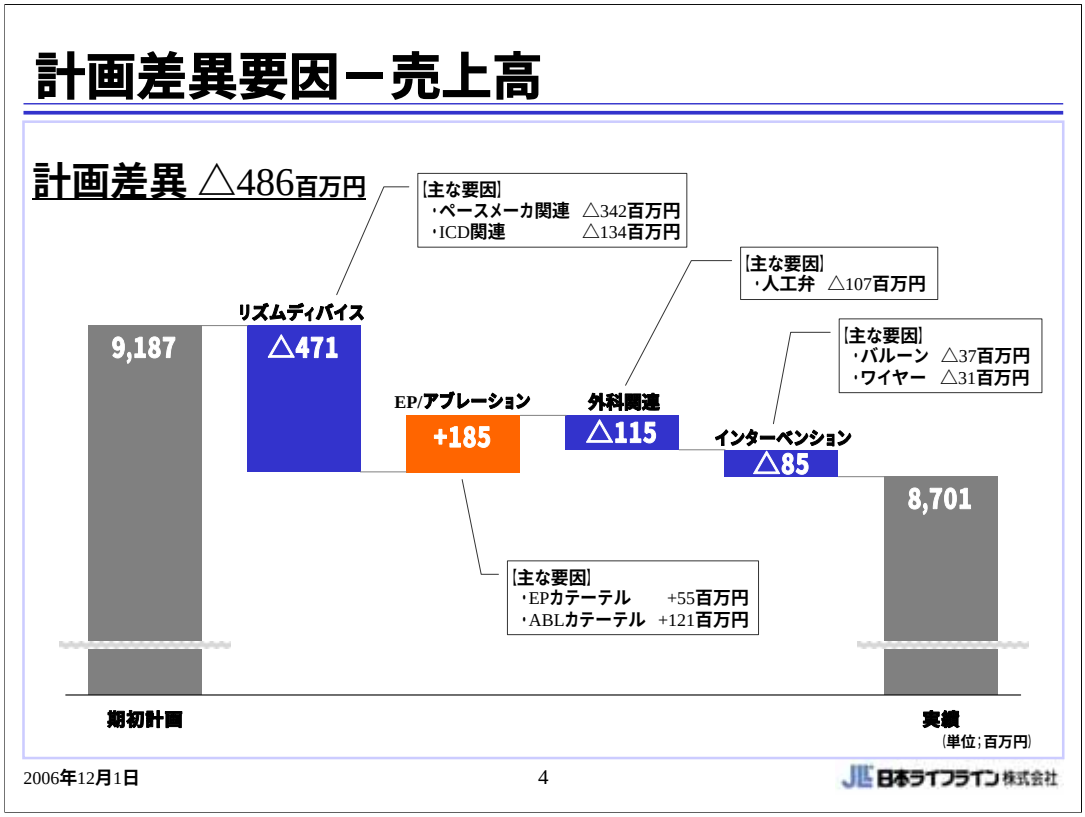
2007年3月期の中間期業績におけるポイントは次の2点となります。

①保険償還価格の引き下げ
本年4月に行われた保険償還価格の引き下げは、近年における一回の引き下げとしてはかなり大きな引き下げ幅となりました。これに対して当社といたしましては、販売数量の増加によりカバーすべく努めましたが、価格下落の影響を吸収するまでには及びませんでした。

②商品リコールの影響
本年6月にペースメーカおよびICDにおいて、一部商品の自主回収を行いました。具体的な健康被害はありませんでしたが、一部施設にて買い控えが発生したため、当社の主力であるリズムディバイス部門が大きく計画を下回る結果となりました。

以上のことから、売上高は期初計画を下回る87億1百万円となりました。

利益面におきましては、営業利益、経常利益および純利益のいずれも期初計画を上回る結果となりました。



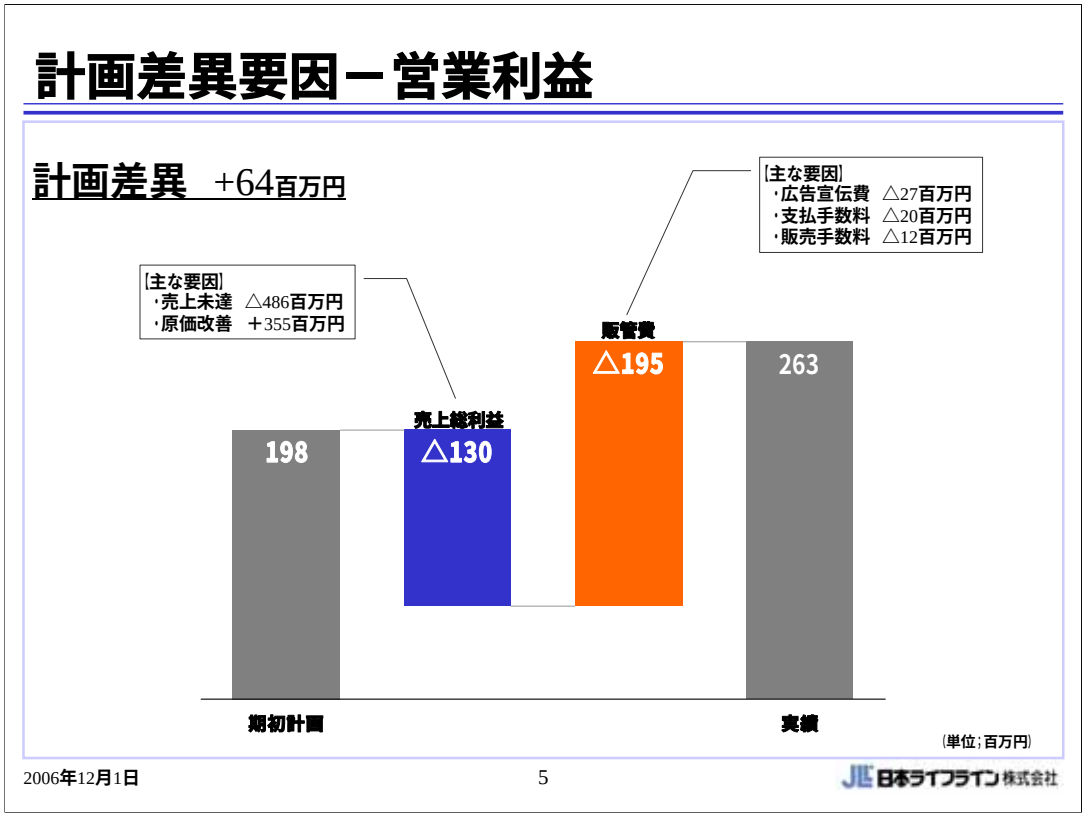
売上高につきましては、計画を4億8千6百万円下回る結果となりました。

◆リズムディバイス
その理由といたしましては、リコールの影響により、リズムディバイスの売上が、計画を4億7千1百万円下回ったことが大きく影響しております。個別の品目では、ペースメーカ関連において3億4千2百万円、ICD関連において1億3千4百万円の計画未達となっております。

◆EP/アブレーション
自社製品であるEP/アブレーションにおきましては、EPカテーテルおよびアブレーションカテーテルがともに計画を上回って進捗した結果、計画を1億8千5百万円上回りました。

◆外科関連
外科関連では計画を1億1千5百万円下回りました。主な要因は、人工弁における治療のトレンドが、当社が販売する機械弁から生体弁へと移行しており、市場自体が縮小していることから、計画を1億7百万円下回ったことによります。

◆インターベンション
インターベンションにおいても、計画を8千5百万円下回りました。バルーンカテーテル、およびガイドワイヤーにおいて、数量ベースでは前年同期を上回りましたものの、保険償還価格下落の影響を補うまでには至らなかったことが主な要因となっております。



営業利益につきましては、計画を6千4百万円上回りました。

これは、売上高が計画を下回りましたものの、原価率が計画より1ポイント改善したことから、売上総利益の未達を1億3千万円に抑えられたことが寄与しております。

原価率の改善につきましては、他の商品に比べ相対的に原価が高いICDの売上構成比が計画を下回る一方、自社製品の売上構成が高まるなど、売上構成の変化によるものです。

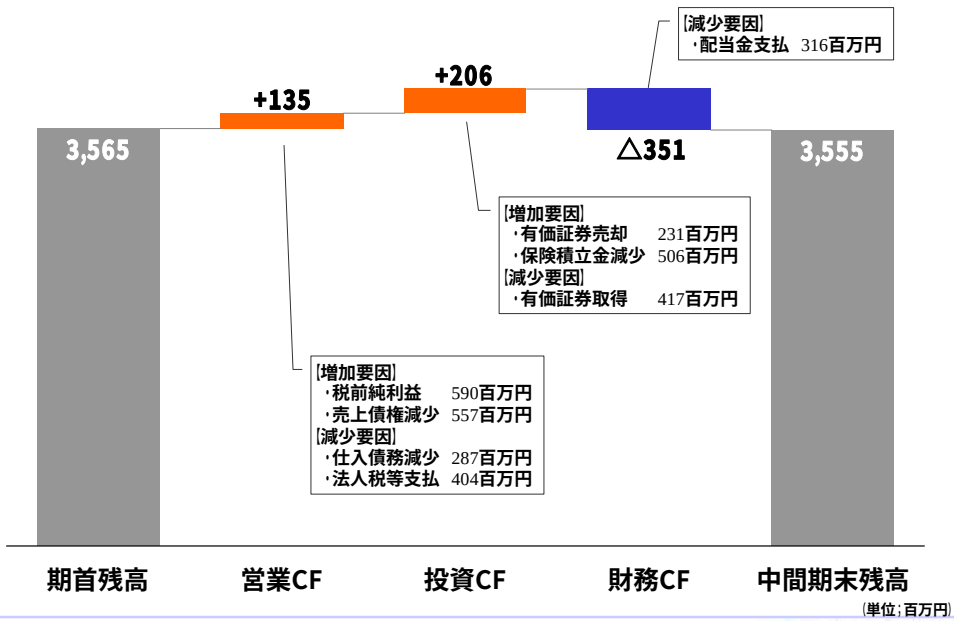
また、販管費につきましても計画を1億9千5百万円下回りました。これは、主に販管費全般につきコスト削減を進めた効果によるものであります。



経常利益につきましては、営業利益の増加に加え、営業外収益が計画を4千5百万円上回ったことから、5億7千7百万円と計画を1億4百万円上回りました。営業外収益の主な内容は、通貨スワップの時価評価にかかる為替差益、および事業保険の解約による受取保険金となっております。

中間純利益につきましては、特別利益および特別損失をそれぞれ計上し、最終的に2億7千1百万円と、期初計画を5千8百万円上回る結果となりました。

2007年3月中間期実績ーキャッシュ･フロー

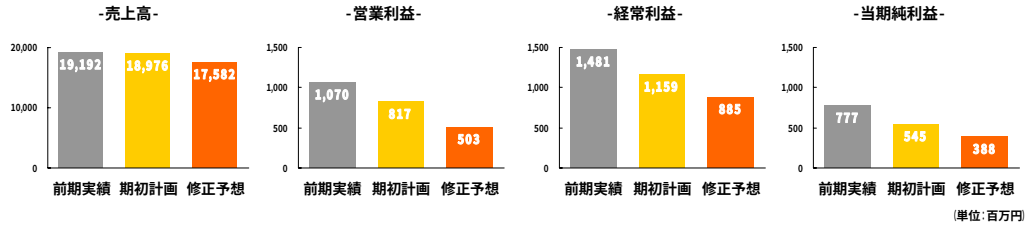


2006年12月1日 7 日本ライフライン株式会社

キャッシュフローにつきましては特筆すべき点はありませんが、前期は25円の普通配当に加え5円の記念配当を行ったため、財務キャッシュ･フローの配当金支払が3億1千6百万円となっております。

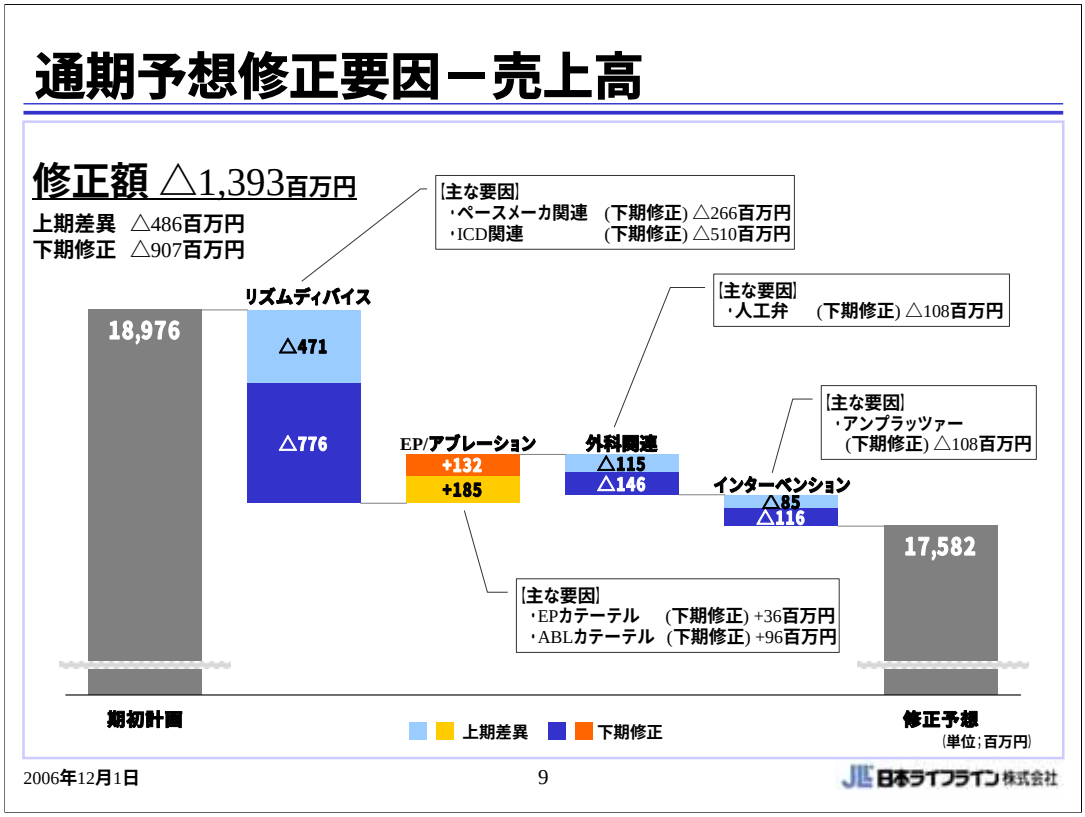
2007年3月期通期予想

(単位;百万円)	07/3通期 修正予想	07/3通期 期初計画	期初計画比 増減額	期初計画比 増減率	06/3通期 実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	17,582	18,976	△1,393	△7.3%	19,192	△1,610	△8.4%
営業利益	503	817	△314	△38.4%	1,070	△566	△52.9%
経常利益	885	1,159	△273	△23.6%	1,481	△595	△40.2%
当期純利益	388	545	△157	△28.9%	777	△389	△50.1%



2006年12月1日 8 日本ライフライン株式会社

今回発表いたしました通期予想は、5月に発表した当初予想を下方修正しております。全般的に下半期においても上半期の厳しい環境が引きつづき継続するとの見込みに基づくものであります。



売上高は、期初計画から13億9千3百万円下方修正いたしました。これは、上半期の計画未達に加え、下半期見込みを期初計画から9億7百万円引き下げたことによるものです。

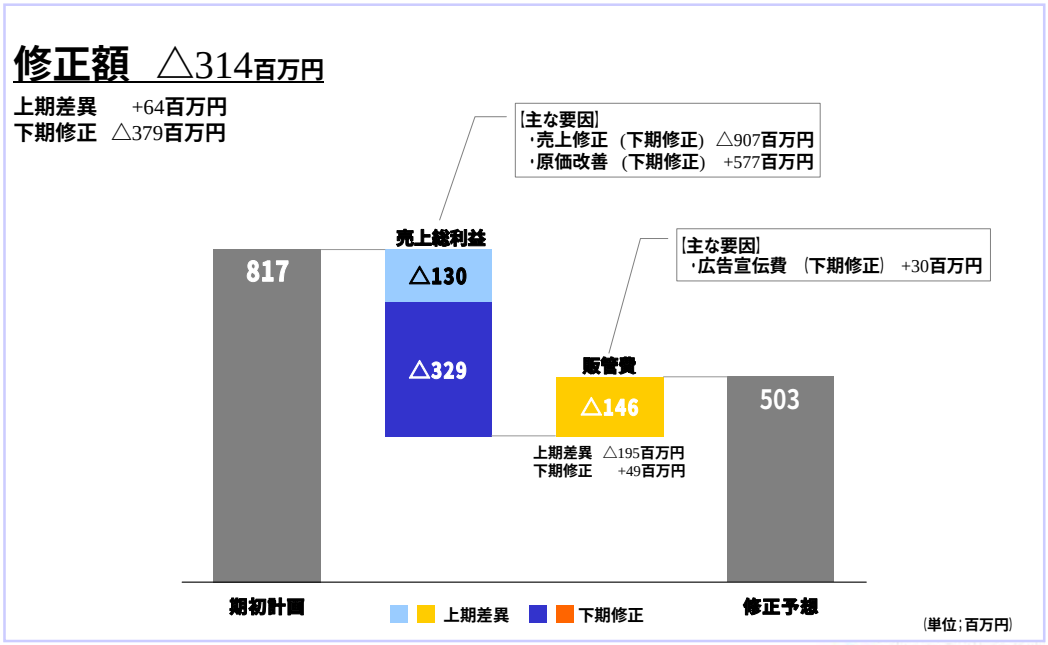
◆リズムディバイス
リズムディバイスにおきましては、下半期計画を7億7千6百万円引き下げた結果、上半期の4億7千1百万円の未達とあわせ、通期で12億4千8百万円の下方修正となりました。これは、ペースメーカおよびICDを取り巻く厳しい状況が上半期から引きつづき継続することが見込まれること、また、下半期に見込んでいたICDの新商品発売が流動的な状況であるため、下半期の見込みから外したことが影響しております。

◆EP/アブレーション
EP/アブレーションにおきましては、EPカテーテル、アブレーションカテーテルともに上半期から引きつづき好調に推移することが見込まれるため、下半期の計画を1億3千2百万円引き上げた結果、通期で期初計画を3億1千8百万円上回る見込みとなっております。

◆外科関連
外科関連におきましては、下半期の計画を1億4千6百万円引き下げ、通期で2億6千1百万円の下方修正といたしました。これは、人工心臓弁の市場環境の改善が見込まれないことから、下半期の計画を1億8百万円引き下げたことが主な要因であります。

◆インターベンション
インターベンションにおきましては、下半期計画を1億1千6百万円引き下げ、通期で2億2百万円の下方修正となっております。これは、今期より販売が本格化しました心房中隔欠損閉鎖器具「アンプラッツァー」において、認定施設のトレーニングが遅れたことから、下半期の症例数が当初見込みより少なく推移することが見込まれるため、計画を1億8百万円引き下げたことによります。

通期予想修正要因－営業利益



2006年12月1日　10　日本ライフライン株式会社

営業利益につきましては、上半期は6千4百万円計画を上回りましたが、下半期の見込みを期初計画から3億7千9百万円下方修正した結果、通期の見込みは期初計画を3億1千4百万円下回る、5億3百万円を見込んでおります。

これは、売上総利益段階において、下半期においても原価率の改善により5億7千7百万円のプラス効果がありますものの、売上高の下方修正が大きいため、下期の見込みを期初計画から3億2千9百万円引き下げたことが影響しております。

また、販管費につきましては、上半期は計画を1億9千5百万円下回っておりますが、下半期においては広告宣伝費等予算の上半期からの期ずれもあり、期初計画より4千9百万円増加する見込みであるため、通期では期初計画を1億4千6百万円下回るものと見込んでおります。

補足データ

(単位;百万円)	2006年3月期		2007年3月期	
	中間期	通期	中間期	通期(予)
設備投資額	171百万円	271百万円	59百万円	220百万円
減価償却費	92百万円	211百万円	69百万円	168百万円
研究開発費	117百万円	257百万円	89百万円	209百万円
為替(US$)	110.43円	113.17円	115.77円	120.0円
期末従業員数	364名	364名	369名	389名

(資料) 要約損益計算書

(単位:百万円)	中間期					通期				
	2007年3月期			2006年3月期		2007年3月期			2006年3月期	
	実績	期初計画	期初計画比	実績	実績比	修正予想	期初計画	期初計画比	実績	実績比
売上高	8,701	9,187	△5.3%	9,709	△10.4%	17,582	18,976	△7.3%	19,192	△8.4%
売上原価	4,617	4,973	△7.2%	5,097	△9.4%	9,159	10,093	△9.2%	9,925	△7.7%
売上総利益	4,083	4,214	△3.1%	4,611	△11.5%	8,422	8,882	△5.2%	9,267	△9.1%
販管費	3,820	4,015	△4.9%	4,079	△6.3%	7,918	8,065	△1.8%	8,196	△3.4%
営業利益	263	198	32.6%	532	△50.5%	503	817	△38.4%	1,070	△52.9%
営業外収益	326	280	16.3%	259	25.6%	402	352	14.1%	454	△11.4%
営業外費用	12	5	109.8%	10	18.6%	21	11	80.9%	43	△51.8%
経常利益	577	473	22.0%	782	△26.2%	885	1,159	△23.6%	1,481	△40.2%
特別利益	36	ー	ー	100	△64.2%	36	ー	ー	120	△70.1%
特別損失	23	0	ー	2	745.8%	30	4	585.1%	13	120.4%
税前利益	590	473	24.7%	880	△33.0%	890	1,154	△22.9%	1,588	△43.9%
法人税等	318	260	22.6%	450	△29.2%	502	608	△17.5%	810	△38.0%
純利益	271	213	27.4%	430	△36.9%	388	545	△28.9%	777	△50.1%

(資料) セグメント別売上高

(単位;百万円)	中間期					通期				
	2007年3月期			2006年3月期		2007年3月期			2006年3月期	
	実績	期初計画	期初計画比	実績	実績比	修正予想	期初計画	期初計画比	実績	実績比
ペースメーカ関連	3,859	4,201	△8.1%	4,708	△18.0%	7,811	8,420	△7.2%	9,162	△14.7%
ICD関連	591	726	△18.5%	1,088	△45.6%	1,099	1,744	△37.0%	1,772	△38.0%
その他	24	18	30.5%	41	△40.0%	44	38	15.1%	73	△40.0%
リズムディバイス計	4,475	4,946	△9.5%	5,837	△23.3%	8,955	10,203	△12.2%	11,008	△18.6%
EPカテーテル	535	479	11.5%	320	66.9%	1,029	938	9.7%	751	37.0%
ABLカテーテル	703	581	21.0%	550	27.6%	1,396	1,177	18.6%	1,199	16.4%
その他	36	27	29.2%	38	△6.1%	63	55	14.7%	83	△24.1%
EP/ABL計	1,274	1,089	17.0%	909	40.1%	2,489	2,171	14.7%	2,035	22.3%
人工弁	538	646	△16.7%	611	△11.9%	1,067	1,283	△16.8%	1,208	△11.6%
人工肺関連	260	246	5.9%	219	18.8%	513	495	3.7%	480	6.9%
人工血管	1,245	1,267	△1.7%	1,200	3.7%	2,513	2,577	△2.5%	2,556	△1.7%
その他	0	0	△67.7%	7	△97.2%	0	1	△35.1%	8	△91.2%
外科関連計	2,045	2,160	△5.3%	2,038	0.3%	4,096	4,358	△6.0%	4,254	△3.7%
バルーン	586	624	△6.0%	645	△9.1%	1,260	1,297	△2.9%	1,307	△3.6%
ガイドワイヤー	216	247	△12.7%	249	△13.5%	471	503	△6.4%	502	△6.2%
アンプラッツァー	71	77	△7.2%	ー	ー	192	306	△37.1%	24	675.2%
その他	30	41	△26.2%	27	12.5%	116	135	△13.8%	59	95.2%
インターベンション計	905	990	△8.6%	922	△1.8%	2,040	2,243	△9.0%	1,894	7.7%
合計	8,701	9,187	△5.3%	9,709	△10.4%	17,582	18,976	△7.3%	19,192	△8.4%

課題と展望

代表取締役社長
鈴木　啓介

2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

下半期の課題

これまでの取り組みを着実に推進

◆既存マーケットの販売強化

－単価下落の影響を販売数量増でカバー

◆自社製造製品の拡充

－高利益率の確保･商品供給リスクの回避

◆ニューディバイスの投入

－価格競争の回避･新規取引先の開拓

→既存マーケットの販売強化には特に注力

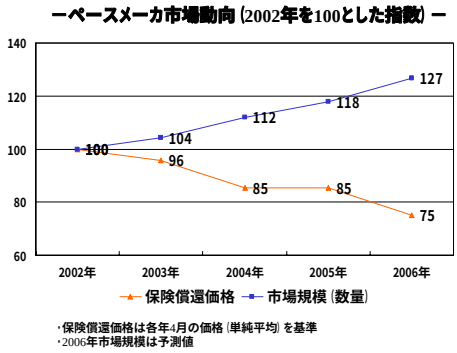
既存マーケットの販売強化 (1)

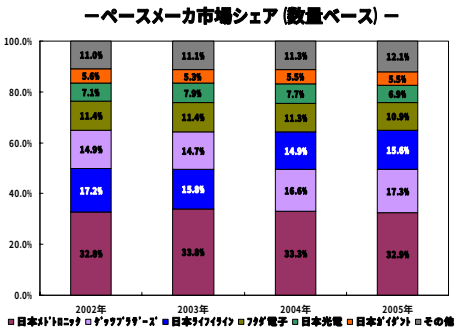
【心臓ペースメーカ】

◆保険償還価格は低下しているが、マーケットは拡大

◆商品の一部自主回収の影響を受ける

→信頼回復に努め、シェア回復に注力





2006年12月1日

16

日本ライフライン株式会社

本年4月の保険償還価格改定では、ペースメーカにおいては機種によっては最大で約15%の価格引き下げとなったことに加え、本年6月のリコール後の一部施設での買い控えの影響により売上高は計画を下回って推移しております。

しかしながら、心臓疾患自体は増加傾向にあり、マーケット自体も拡大基調にあるので、まず、信頼回復に努め、シェア回復を図っていきます。

既存マーケットの販売強化 (2)

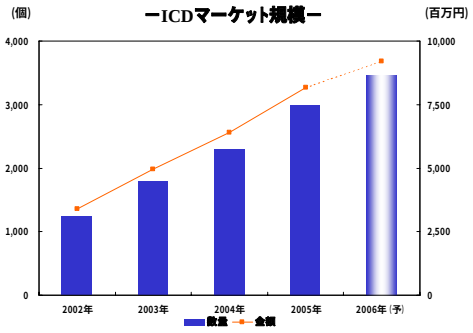
【ICD (植込み型除細動器) 】

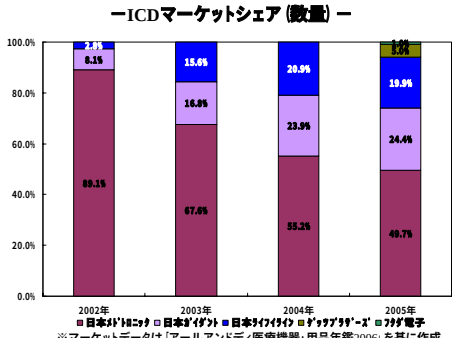
◆新規参入によりシェアダウン

◆商品の一部自主回収の影響も受ける

◆新商品の発売時期が流動的

→厳しい状況ではあるが現在のシェア堅持に努める





2006年12月1日

JLL 日本ライフライン株式会社

ICDにおいてはやはり新規参入による競争環境の激化により、非常に厳しい状況にありますが、発売時期は流動的ではあるものの、新商品の発売によりシェアを回復していけるものと見込んでおります。

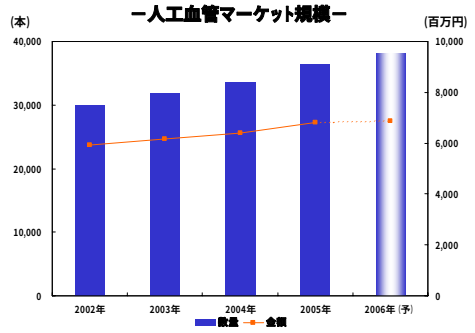
既存マーケットの販売強化（3）

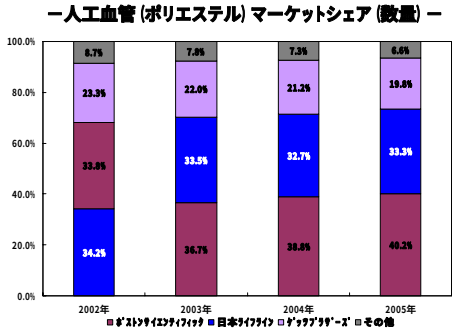
【人工血管】

◆マーケットは拡大しておりシェアも安定的に推移

◆今期2度（06年4月、07年1月）の保険償還価格の引き下げ

→オンリーワン商品や末梢用血管新商品（下期発売）を梃子に売上拡大へ





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

2006年12月1日

18

日本ライフライン株式会社

人工血管においては、安定的な売上を継続しておりますが、2006年の4月、2007年の1月、4月と合計で25%の保険償還価格の引き下げが行われます。
この影響をカバーするためには、従来のポリエステル血管（大血管）市場での販売強化に加え、新商品の発売を機にePTFE血管（末梢血管）の市場にも注力してまいります。

新商品ハイライト

【人工血管】

ePTFE血管　New「マキシフロー」



◆末梢用の人工血管

◆12月よりフルリリース予定

◆従来品より強度を向上、柔軟性も高まる

◆ ePTFEマーケットにおけるシェアアップに寄与

　ーePTFEマーケット規模　2,445百万円（2005年）

※ePTFE（延伸ポリテトラフルオロエチレン）

ポリエステルに比べ物質が付着しにくい性質があるため、小血管においても血栓による閉塞が発生しにくい。一方、復元力や弾力性に劣るため、縫合の際針穴が塞がりにくかったり、血管を曲げた場合つぶれてしまう等の問題点がある。

2006年12月1日　19　日本ライフライン株式会社

ePTFE血管の新商品は、薄く、また縫合の際の針穴からの血液の漏れも少ないため、市場においても高い評価を頂いております。

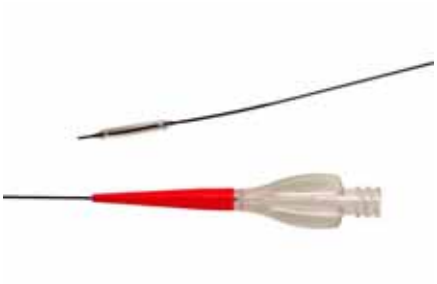
既存マーケットの販売強化 (4)

【バルーンカテーテル】

◆参入企業が多く競争環境が厳しい

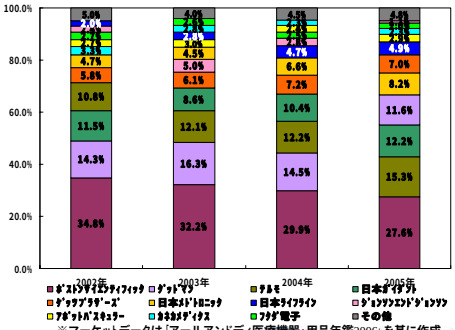
◆「オッティモ」シリーズ（カネカ社製）投入によりシェアアップ

→「オッティモ・ロッソ」（従来主力商品「オッティモ」の後継商品）の市場への着実な漫透を図る



OTTIMO ROSSO

－バルーンカテーテル市場シェア（数量ベース）－



※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

2006年12月1日

JLL 日本ライフライン株式会社

バルーンカテーテルにおきましては、競争が厳しい環境にありますが、カネカ製の商品を発売後は、市場でも一定の評価を獲得し、売上は増加傾向にあります。昨年12月に、従来の主力商品の後継商品を発売しておりますので、さらなるシェアアップに取り組んでまいります。

既存マーケットの販売強化 (5)

【インターベンション関連商品】

◆インターベンションマーケットの伸長

→商品ラインアップの充実により売上増を図ると同時に
既存商品とのシナジー効果を発揮

＜インターベンション関連新商品＞

・血栓異物除去用カテーテル 「フィルトラップ」(ニプロ製)

・マイクロカテーテル 「アクロバ」(カネカ製)
※マイクロカテーテル・・・ガイドワイヤーのサポートに使用

2006年12月1日 21 日本ライフライン株式会社

インターベンション関連の商品はこれまでバルーンカテーテルとガイドワイヤーのみでしたが、商品ラインアップの充実を図り、ニプロ製の血栓異物除去用のカテーテルおよびカネカ製のマイクロカテーテルを発売し、インターベンションの強化を図ってまいります。

新商品ハイライト

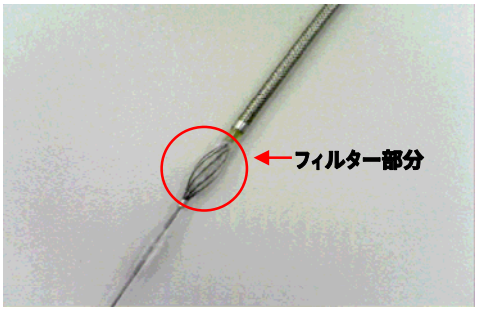
【インターベンション関連商品】

血栓異物除去用カテーテル「フィルトラップ」(ニプロ製)

◆血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去

◆バスケットがフィルター型のため血流を確保

◆第4四半期より本格発売予定



自社製造製品の拡充（1）

【概　況】

◆順調な売上推移（07/3中間期　1,454百万円）

◆自社販路に加えOEM開始

【課　題】

◆製造コストのさらなる低減

◆販路の拡大

【自社製品品目】

◆EP（電気生理用）カテーテル

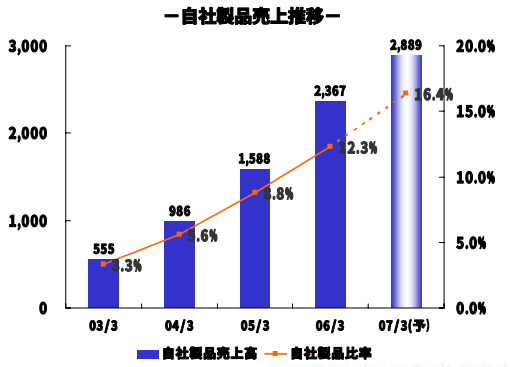
・・・不整脈の検査に使用

◆アブレーションカテーテル

・・・頻脈性不整脈の治療に使用

◆ガイドワイヤー

・・・心筋梗塞等の治療時に使用



2006年12月1日　23　日本ライフライン株式会社

自社製造製品においては、新製品の発売やOEMの本格化等もあり、前期より引き続き好調に推移した結果、中間期では売上構成比が16.7%まで高まりました。

今後は、これまで通り現場ニーズを的確に反映した製品開発を続ける他、製造コストの削減や、海外展開を含めた販路の拡大に取り組んでまいります。

自社製造製品の拡充 (2)

【EP (電気生理用) カテーテル】

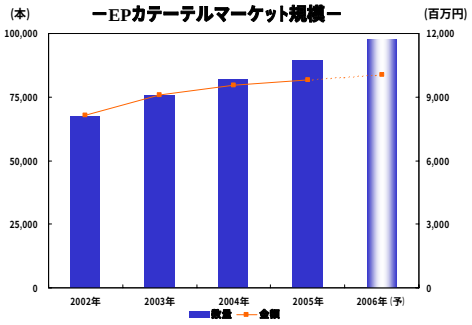
◆アブレーション治療に先立ってEPカテーテルを使用
　－アブレーションカテーテルではトップシェアを獲得

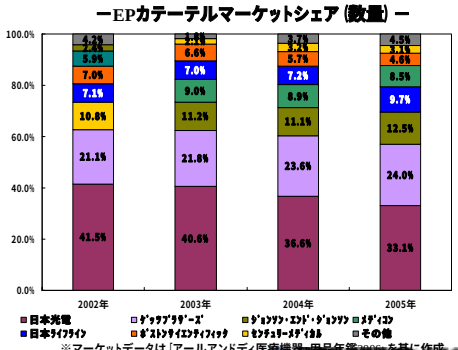
◆新製品「EPスター スネイク」発売 (本年8月)

→きめ細かい営業展開によりマーケットを深耕



EPstar Snake





2006年12月1日　24　日本ライフライン株式会社

現在トップシェアを獲得したアブレーションカテーテルでの治療に際しては、検査のためにEPカテーテルが使用されますので、きめ細かい営業活動を展開し、EPカテーテルのシェアアップに取り組んでおります。

また、上半期の新製品発売に加え、引き続き製品バリエーションの充実や新製品の開発にも取り組んでおります。

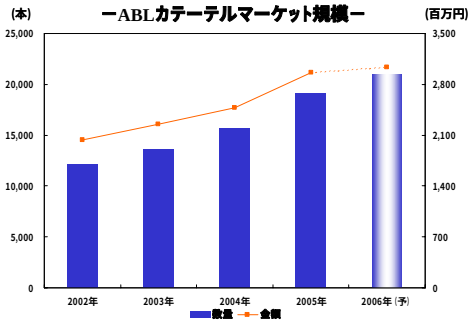
自社製造製品の拡充 (3)

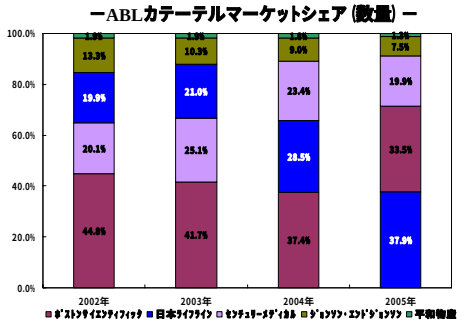
【アブレーションカテーテル】

◆心房細動治療への適応により症例数･施設数増加
　－現在の約350施設から将来的に500施設程度まで増加見込み

◆現場ニーズを反映した製品開発により高評価を得る

→トップシェアを維持することで保険償還価格下落の影響を吸収し売上拡大へ





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器･用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

2006年12月1日

25

日本ライフライン株式会社

アブレーションカテーテルでは、アブレーション治療の心房細動への適用により、今後も症例数の増加が見込まれるため、市場の拡大が見込まれます。引きつづき、トップシェアを維持し、売上拡大を図ってまいります。

自社製造製品の拡充 (4)

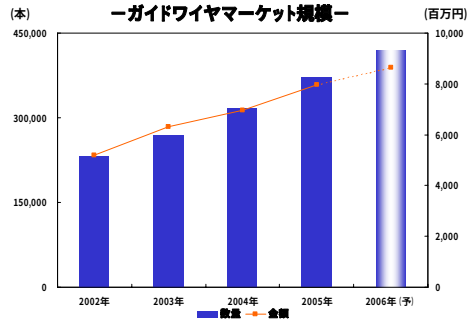
【ガイドワイヤー】

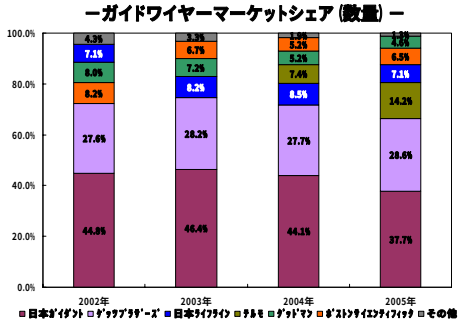
◆新製品投入の遅れからシェアダウン

◆新製品「アスリート イール」発売 (本年10月)

ー親水性ポリマーコーティングによりすべり性能向上

→新製品の迅速な市場導入を図りシェア回復へ





※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2006」を基に作成
※集計期間は1～12月

2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

当社初の自社製造製品であるガイドワイヤーですが、新製品の投入が遅れていたこともあり、ややシェアを落としておりました。下半期よりポリマーコーティングによりすべり性能を向上させた新製品を発売したいたしましたので、シェア回復に取り組んでまいります。

ニューディバイスの投入 (1)

【心房中隔欠損閉鎖器具】
(商品名;アンプラッツァー・セプタルオクルーダー)

◆本年4月の保険適用により治療本格化
◆認定施設数が少ないため治療実績数はゆるやかに増加
－当初3施設でスタートし今期は10施設まで増加予定

→認定施設数の増加に向けた取り組み

■アンプラッツァー・セプタルオクルーダー
先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患(心房中隔欠損症)をカテーテルを用いて治療します。従来の治療方法である外科手術に比べ、患者様の身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。
国内では当社のみが扱っている商品です。



2006年12月1日 27 日本ライフライン株式会社

アンプラッツァー・セプタルオクルーダーにつきましては、施設基準が厳しく、また、ドクターが一定のトレーニングを受ける必要があります。そのため、当初見込みに比べ、施設数の増加が遅れております。

しかしながら、患者様にとっては身体的負担が軽減されますので、今後施設数の増加に伴い、治療実績も伸びていくことが見込まれております。

ニューディバイスの投入（2）

【CRT-D（除細動機能付両心室ペースメーカ）】
（商品名；「コンタック・リニューアル4」）

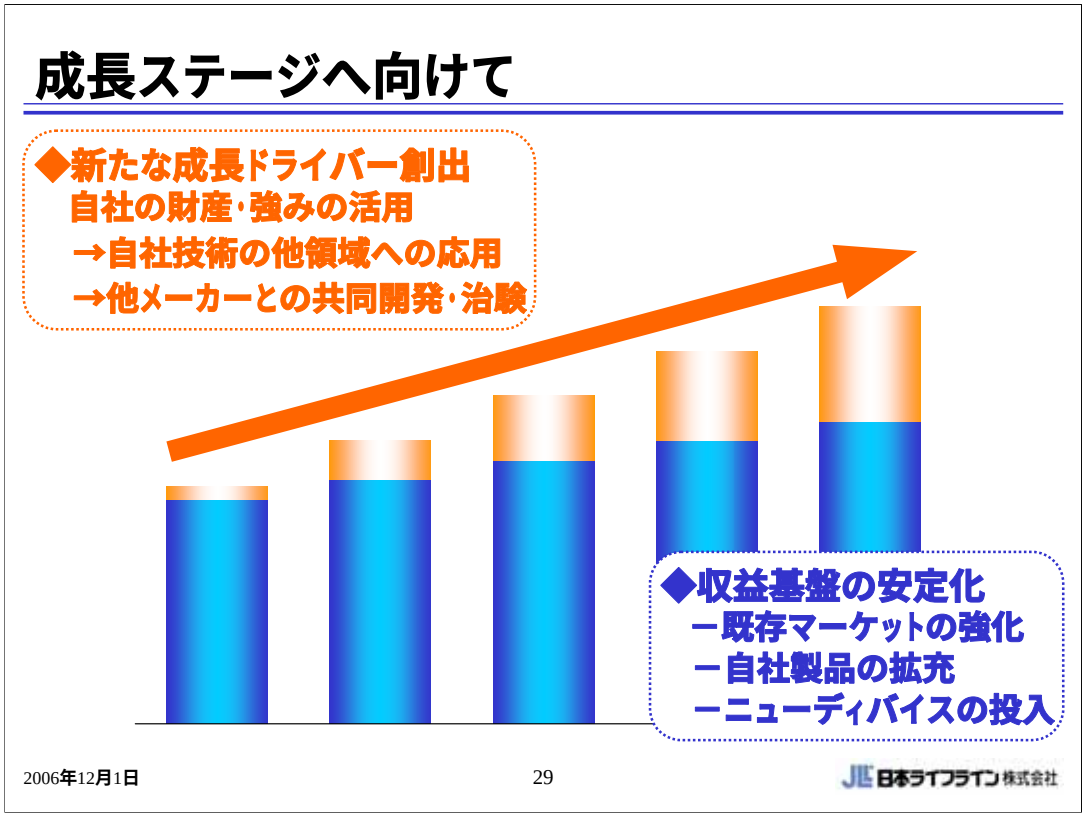
◆2007年1月以降本格参入予定

◆マーケット規模は約3,000台（2007年見込み）

◆保険償還価格　５５９万円（本体+リード）

■CRT-Dとは
心筋梗塞や拡張型心筋症等により心臓のポンプ機能が著しく低下し、薬物治療のみでは回復を図ることが困難な重症心不全の患者に対し、「心臓再同期療法」(CRT)という、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることによりポンプ機能を改善させる治療を行うための機器です。CRT-Dは、両室ペーシング機能に加え除細動の機能を持っており、重症心不全患者における死因の約40～50%を占めると言われる、心室細動等の致死性不整脈による心臓突然死のリスクを軽減することができます。

CRT-Dは、既に他社が販売しておりますが、相当数の治療実績をあげており、従来であればICDやCRT-P（除細動機能をもたない両室ペースメーカ）を使用した症例にも使用されており、今後、マーケットの拡大が予想されますので、当社におきましても、発売後は売上に貢献するものと期待しております。



今後は、まず、収益基盤の安定化を図り、保険償還価格引き下げ等の経営環境変化の影響を極力受けにくい体質を作り上げるとともに、これまでに培った自社技術の他領域への応用や、他社との共同開発や治験により、新たな成長ステージへと進んでまいります。

(参 考) 会 社 概 要

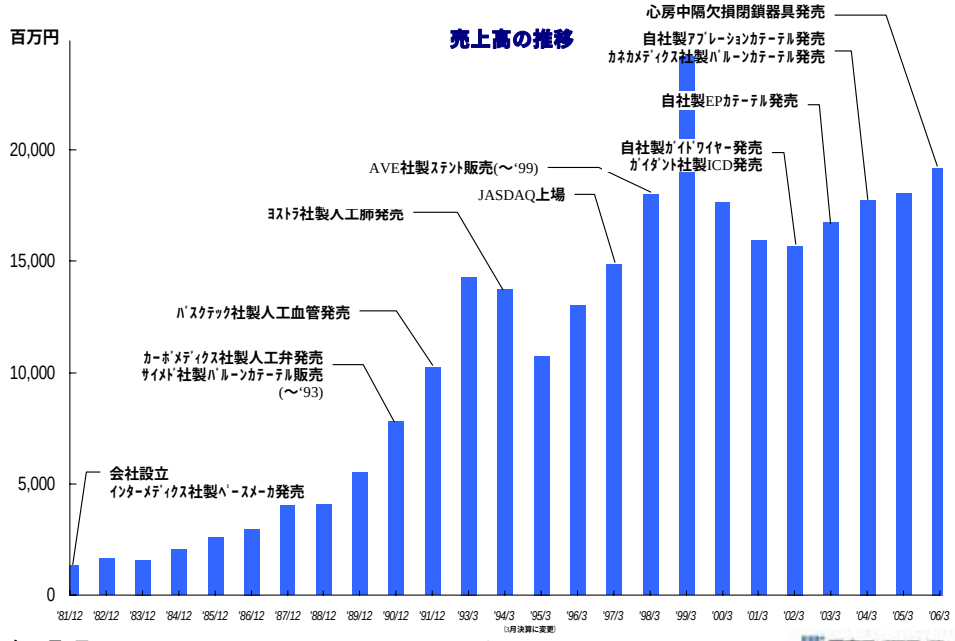
2006年12月1日

日本ライフライン株式会社

会社概要

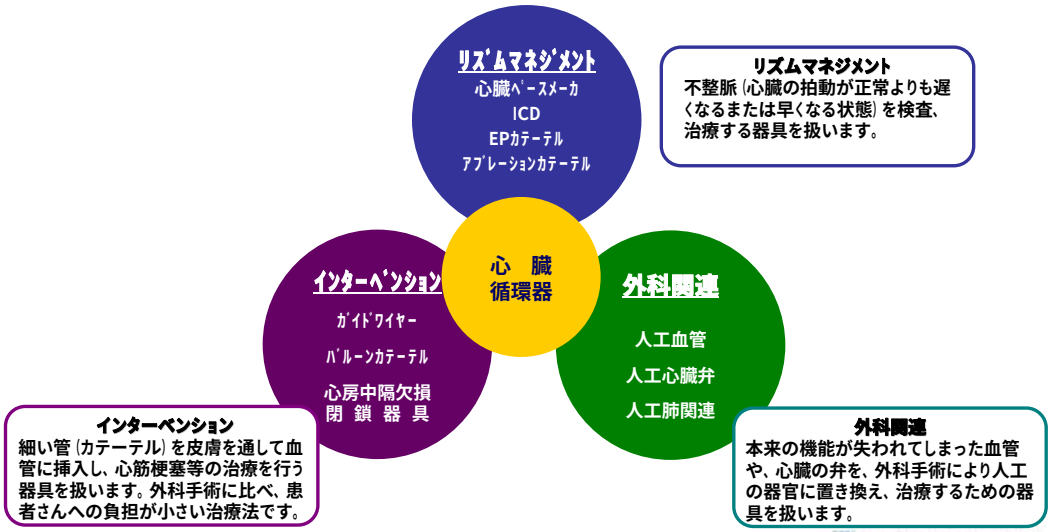
【商　　号】日本ライフライン株式会社
【代 表 者】代表取締役社長　鈴木　啓介
【本　　社】東京都豊島区池袋2-38-1
【設　　立】1981年2月6日
【上　　場】1997年12月8日（JASDAQ）
【証券コード】7575
【事業内容】医療機器の輸入、製造および販売
【資 本 金】2,115百万円
【従業員数】369名（2006年9月30日現在）
【事 業 所】営業所（25）、出張所（2）、商品センター
　　リサーチセンター、浮間ファクトリー

沿革


売上高の推移
百万円
20,000
15,000
10,000
5,000
0
心房中隔欠損閉鎖器具発売
自社製ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
ｶﾈｶﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製EPｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ発売
ｶﾞｲﾀﾞﾝﾄ社製ICD発売
AVE社製ｽﾃﾝﾄ販売(～'99)
JASDAQ上場
ﾖｽﾄﾗ社製人工肺発売
ﾊﾞｽｸﾃｯｸ社製人工血管発売
ｶｰﾎﾞﾒﾃﾞｨｸｽ社製人工弁発売
ｻｲﾒﾄﾞ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ販売
(～'93)
会社設立
ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾍﾟｰｽﾒｰｶ発売
'81/12 '82/12 '83/12 '84/12 '85/12 '86/12 '87/12 '88/12 '89/12 '90/12 '91/12 '93/3 '94/3 '95/3 '96/3 '97/3 '98/3 '99/3 '00/3 '01/3 '02/3 '03/3 '04/3 '05/3 '06/3
(3月決算に変更)

事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムマネジメント、インターベンション、外科関連の3つに大別されます。

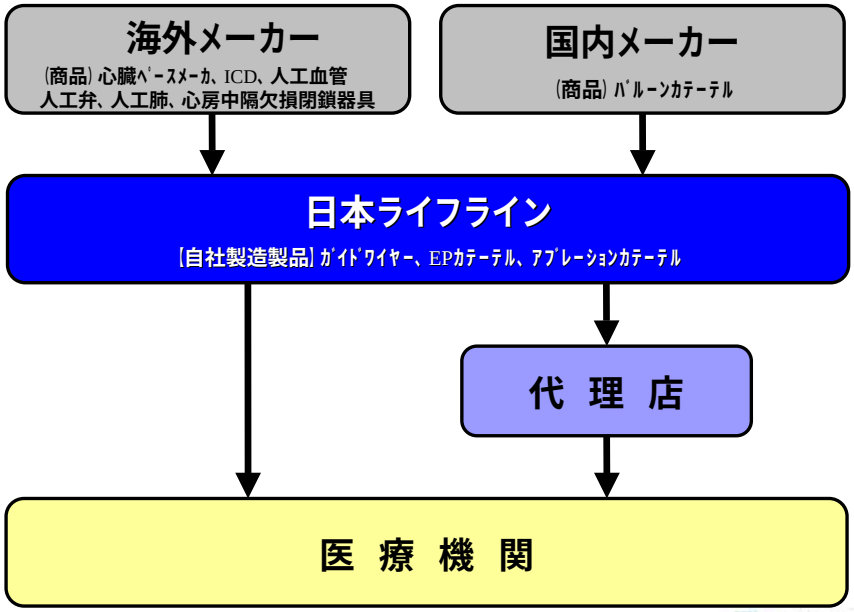


リズムマネジメント
不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を検査、治療する器具を扱います。

インターベンション
細い管（カテーテル）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

外科関連
本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

商品の流通経路


海外メーカー
(商品) 心臓ﾍﾟｰｽﾒｰｶ、ICD、人工血管
人工弁、人工肺、心房中隔欠損閉鎖器具
国内メーカー
(商品) ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ
日本ライフライン
【自社製造製品】ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ、EPｶﾃｰﾃﾙ、ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ
代 理 店
医 療 機 関

商品紹介ーリズムマネジメント



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓ペースメーカ

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD（植込み型除細動器）

アブレーションカテーテル



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。

EP（電気生理用）カテーテル



不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

商品紹介ーインターベンション



バルーンカテーテル

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



先端イメージ図

ガイドワイヤー



心房中隔欠損閉鎖器具

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）をカテーテルを用いて治療します。

従来の治療方法である外科手術に比べ、患者さんの身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。

商品紹介ー外科関連



人工心臓弁

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。



人工血管

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。

人工弁付血管



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

人工肺



心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。

■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部　山田
電話　03-3590-1618
URL　http://www.jll.co.jp

... for patient comfort.